

受診者番号:
フリガナ:
氏名:
生年月日:
性別:

発行年月日:

()歳

無痛(和痛)分娩に関する説明書

【当院における無痛(和痛)分娩について】

- ・分娩時の痛みを緩和する方法として、硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔による鎮痛を行います。完全に痛みがなくなるのではなく、分娩時の苦痛をなるべく緩和・軽減することを目的としています。
- ・当院の無痛(和痛)分娩では、子宮収縮剤を用いた誘発による計画分娩としています。麻酔科医師と連携して行なっています。
- ・計画分娩ができない場合、硬膜外麻酔が不可と判断される場合など、無痛(和痛)分娩ができないことがあります。

【無痛(和痛)分娩の準備から入院までの流れ】

- ・全身状態を評価するために、妊娠 34～35 週頃の妊婦健診時に分娩前検査(血液検査、尿検査、心電図検査、胸部レントゲン検査)を行います。
- ・麻酔科外来を受診していただき、麻酔科医より麻酔の説明を受けていただきます。
- ・計画分娩の日程は、妊娠 38～39 週を目安に決定します。
- ・無痛(和痛)分娩の前日に入院していただき、子宮口の状態に応じて、子宮口を拡張する処置を行います。
- ・無痛(和痛)分娩当日は、朝 6～7 時頃から子宮収縮剤を開始します。痛みの程度や進行状況に応じて、麻酔担当医により硬膜外カテーテルを留置し、無痛(和痛)分娩を開始します。
- ・分娩終了後、留置した硬膜外カテーテルを抜去します。

【麻酔方法】

当院で行う麻酔法の概要を示します。詳細に関しては、麻酔科外来で配布される「無痛(和痛)分娩麻酔に関する説明書」をもとに麻酔科医師より説明をお受けください。

1) 硬膜外麻酔

無痛(和痛)分娩の標準的な方法で、脊椎の中の硬膜外腔という脊髄を包んでいる袋の外の空間にカテーテルを挿入し、痛みの程度に応じて、出産まで持続的に局所麻酔薬を注入する方法です。痛みの程度に応じて、薬の量や種類を調節します。

2) 脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔併用

脊髄を包んでいる袋の内側にある脊髄くも膜下腔に細い針で麻酔薬を一回注入することで、迅速で確実な鎮痛が得られます。その後、硬膜外カテーテルを用いて持続的に局所麻酔薬を投与します。

受診者番号:

発行年月日:

フリガナ:

氏名:

生年月日:

()歳

性別:

【無痛(和痛)分娩中の制限事項について】

- ・飲食: 誤嚥性肺炎の危険性を減らすために、無痛(和痛)分娩中は原則として食事を禁止しています。飲水は可能ですが、点滴からも水分を補います。
- ・歩行: 麻酔による運動神経麻痺で歩行中に転倒する危険があります。麻酔開始後は原則としてベッド上安静とします。
- ・排尿: 麻酔開始後は基本的にベッド上安静となるのでトイレに行くことが難しくなります。また麻酔による影響で排尿困難になることがあります。必要に応じて尿道に細い管を入れて導尿します。

【ご注意いただきたい事項】

- ・当院で麻酔科医が対応できる時間帯や日程は限定されています。計画分娩予定日より前に自然陣痛発生や破水が起きた場合、無痛(和痛)分娩はできません。
- ・また、無痛(和痛)分娩当日日中に分娩が進行しなかった場合は一旦子宮収縮剤を終了します。麻酔を開始していた場合、夜間は麻酔薬も中止します。夜間分娩が進行する場合や、翌日の無痛(和痛)分娩対応が不可な場合は、通常分娩に切り替わります。

【起こりうる副作用や合併症について】

無痛(和痛)計画分娩を受けた場合、以下のような事象を生じることがあります。

1) 娩出力の低下、分娩遷延

麻酔後も運動機能は保持されますので、ご自身でいきむことは可能です。しかしながら十分な娩出力が得られなくなる場合があります。また、分娩第1期には大きな影響はありませんが、子宮口全開大後の分娩第2期が停滞して子宮収縮薬による陣痛の促進、鉗子分娩・吸引分娩が増加します。帝王切開になる率は上昇しません。

2) 胎児心拍数の低下

無痛(和痛)分娩を開始した直後に赤ちゃんの心拍数が低下することがあります。お母さんに酸素を投与するなど適切に対応することで、赤ちゃんに影響することはほとんどありませんが、胎児心拍数が回復しない場合には、緊急帝王切開を行うことがあります。

3) 子宮収縮薬に伴う副作用や合併症

健診時にお渡しします「陣痛誘発・陣痛促進に関する説明書」をご覧ください。

4) 麻酔に伴う副作用や合併症

麻酔科外来でお渡しします「無痛(和痛)分娩麻酔に関する説明書」をもとに説明を受けてください。

受診者番号:

発行年月日:

フリガナ:

氏名:

生年月日:

()歳

性別:

5) 吸引分娩に伴う副作用や合併症

健診時にお渡しします「当院で分娩を希望される方へ」という説明書をご覧ください。

当院では産科医師、麻酔科医師、助産師により注意深く観察し、上記のような事象が起きた場合は迅速に対応できるような体制を整えています。常にお母さんの心電図、血圧、酸素飽和度をモニタリングし、定期的に診察をします。また、赤ちゃんの心拍モニターも継続して行います。

【当院の無痛(和痛)分娩料金】

当院では無痛(和痛)分娩の費用として、通常分娩費用に加えて15万円(非課税)をいただいております。この中には無痛(和痛)分娩に使用する特殊な針や麻酔薬の料金も全て含まれています。硬膜外カテーテルを挿入した時点で、もし途中で他の分娩方法に切り替わった場合(時間外に他の分娩方法により出産となった場合、無痛(和痛)分娩の途中で帝王切開術での出産となった場合など)でも費用をいただいておりますのでご理解ください。また、外来で検査にかかる費用(1万5千円(非課税))は別途発生します。

ご不明点や心配なことがありましたら、細かいことでも結構ですので遠慮なく担当医やスタッフにお聞きください。また、セカンドオピニオンを希望される場合も遠慮なくご相談ください。